

## 9 - 1 日向灘とその周辺の地震活動

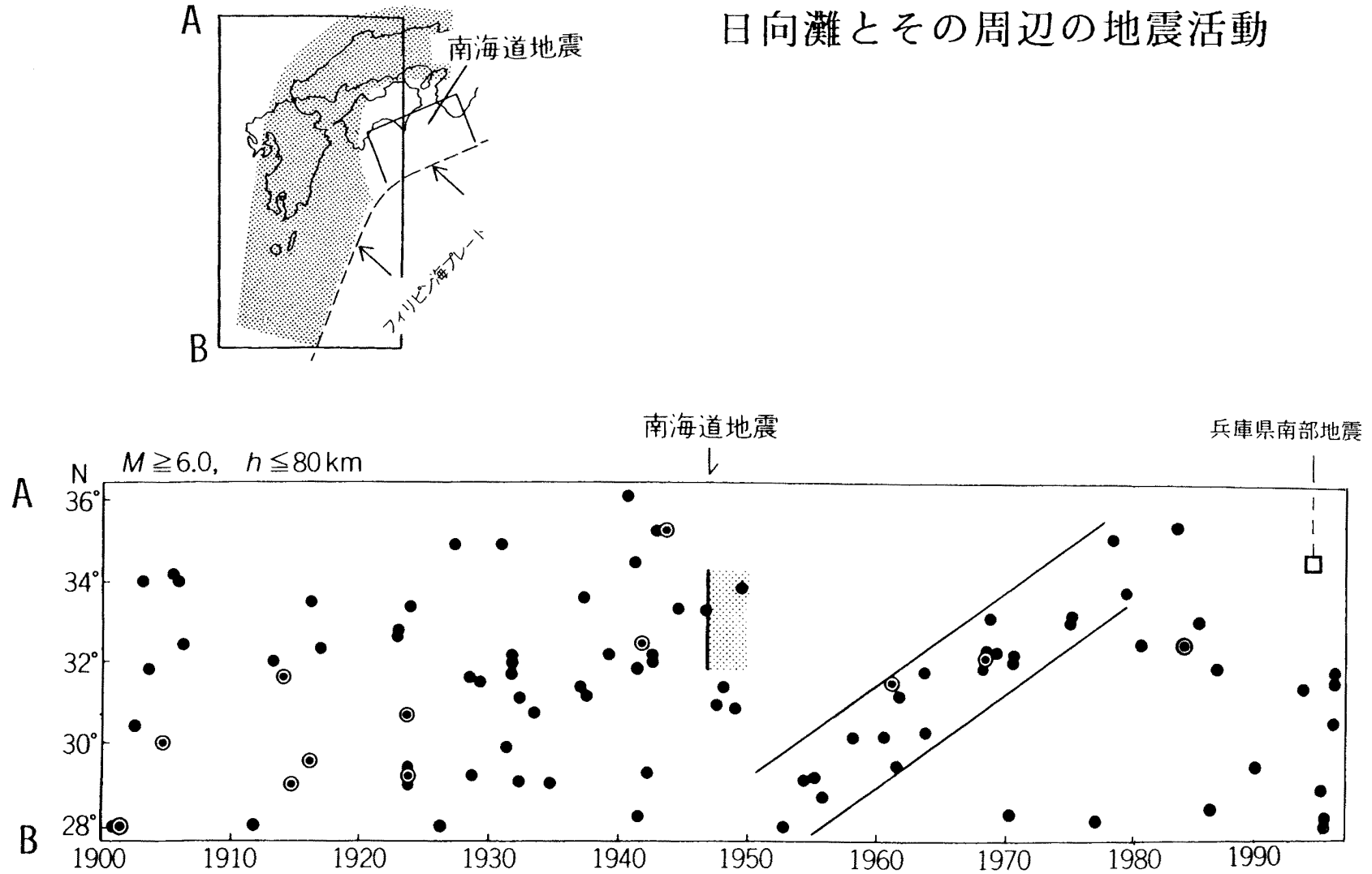
### Seismic activity in the Hyuganada region and it's surrounding area

日本大学 茂木清夫

Kiyoo Mogi, Nihon University

第1図は九州南方沖から日向灘を北上する地震帯の地震の時空間分布図である。縦軸に緯度を取り、横軸に時間をとってある。以前に1980年頃までについて報告したが、今回、日向灘沖で大きい地震があったので追加して報告する。地震はM6.0以上、深さ80km以浅のものである。1946年南海道地震のあと間もなく、南から北への地震活動の移動が明瞭に認められたが、1980年頃からその傾向は消え、南海道地震のずっと前の状態に近い。第2図は1926年以降の各期間内の地震の分布図であるが、1950年から1980年までの地震活動域の北上の様子がよくわかる。第3図は左の地図の枠内で起こったM6.0以上の地震の積算頻度曲線である。この図で注目されることは、南海道地震の前に積算曲線の傾きがやや急になっていること、つまり、この地域でも南海道地震の前に活発化したことである。このことは第1図からも認められる。従って、次の南海道地震の切迫性を推定する上で、近畿・中国地方に加えて、隣接地域である日向灘の活動も参考になると思われる。

# 日向灘とその周辺の地震活動



第1図 上の図の枠内に起こった M6.0 以上の浅い地震の時間空間分布図。兵庫県南部地震は参考のため記入してある。

Fig. 1 Space-time distribution of shallow earthquakes of M6.0 or larger which occurred in the Hyuganada region and its surrounding area.

1. 1926-1935

2. 1936-1950

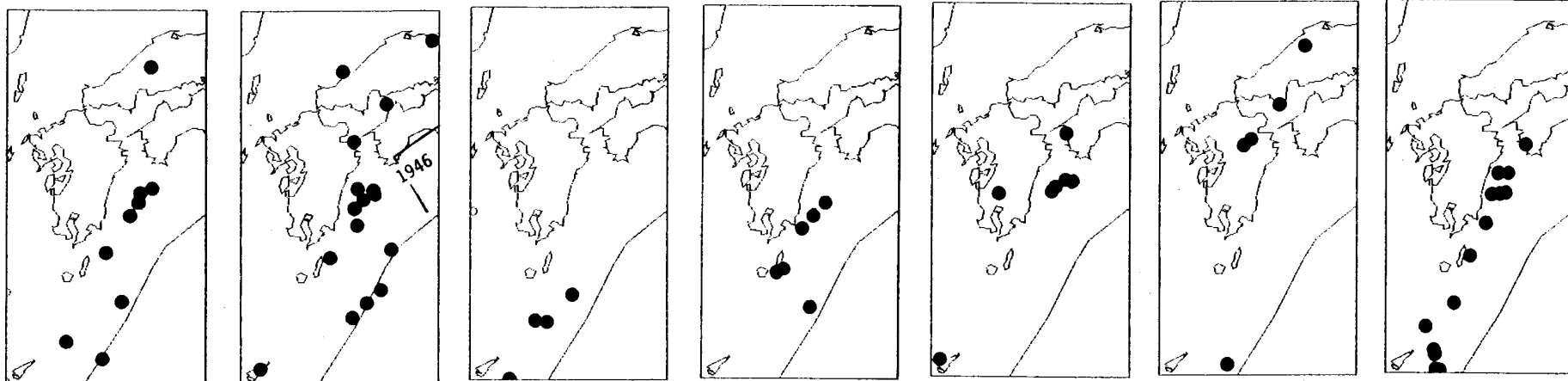
3. 1951-1958

4. 1959-1965

5. 1966-1970

6. 1971-1979

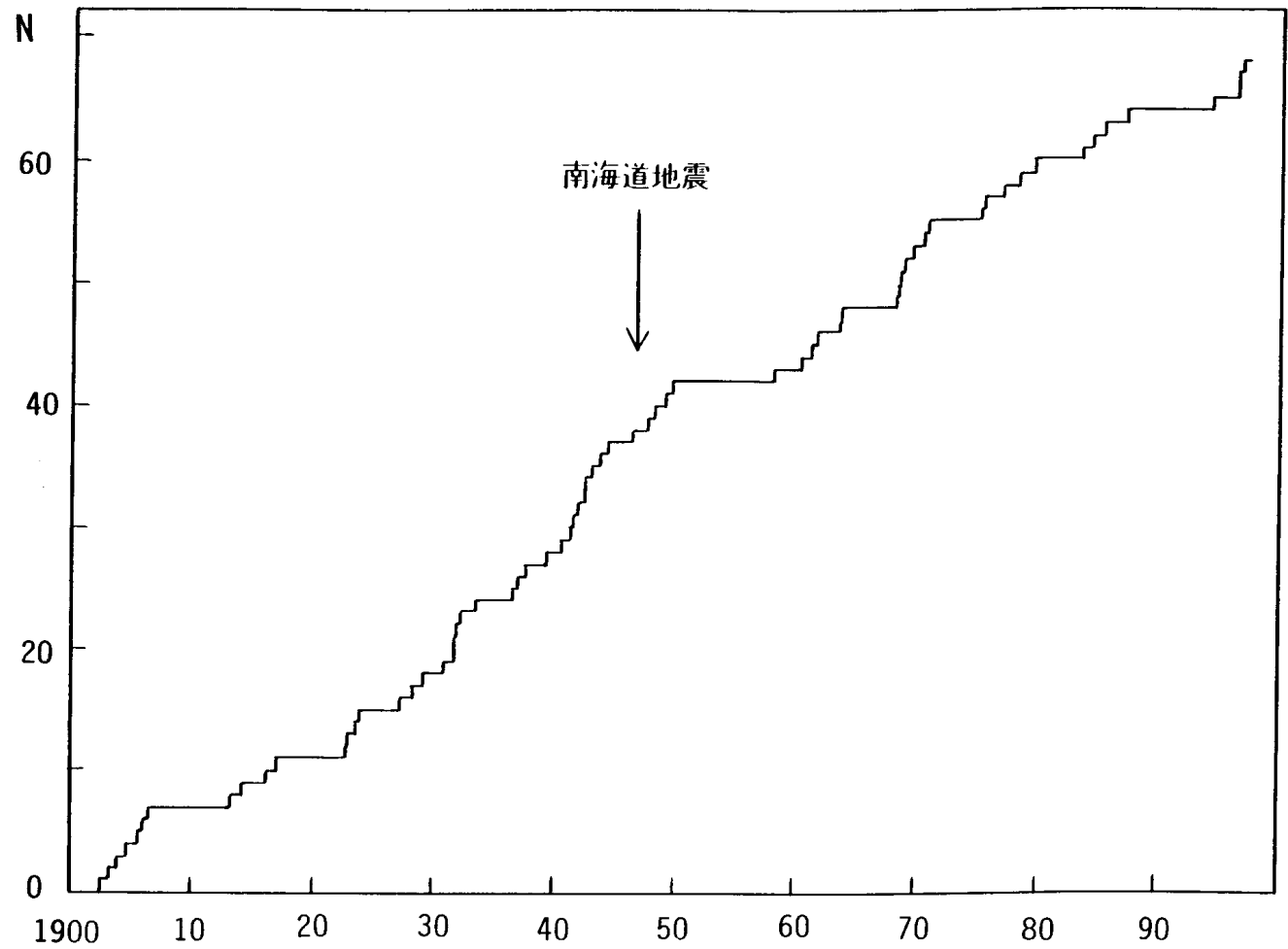
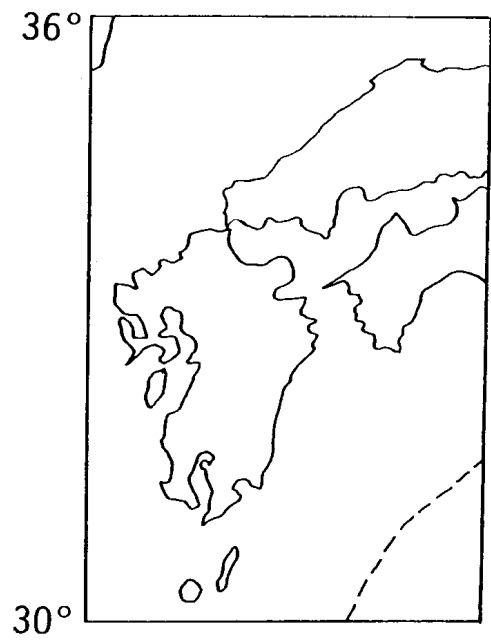
7. 1980-1996



$M \geq 6.0$ , Depth  $\leq 80\text{km}$

第2図 連続した各期間内の浅い地震の震央分布。移動パターンが期間3～6の期間に見られる。

Fig. 2 Epicentral distributions of shallow earthquakes in successive periods. Migration pattern can be seen from the period 3 to the period 6.



第3図 左の図の中で起こったM6.0以上の地震の積算頻度の時間的変化

Fig. 3 Temporal variation of the accumulated number of shallow earthquakes ( $M \geq 6.0$ ) which occurred in the region shown in the left figure.